

調査の概要

1) 調査の目的

日本の若者に注目すべき現象が起きている。「偉くなりたくない」といい、「暮らしていける収入があれば、のんびりと暮らしていきたい」という。

他方、国など公共機関の幹部になることを回避する状況があり、これに対応するかのように、学校では、クラス委員になり手が少なくなっている。

この現象は、「意欲」がないことを基盤としているといえよう。

諸外国の若者と比較してみると、日本の若者は「現在志向」であるのに対して、多くの国の若者は「未来指向」が強いと考えられる。

日本の若者の意欲を根本的に考え直し、これでよいのか、改めるべき点があるかを吟味しようとするのが、本調査の基本的立場である。

日本社会は高度成長を遂げて、満足化社会ともいわれている。そこに新しい文化が生まれているとも考えるべきで、これを「やる気の心理学」とでもいうべき分野では、その社会の文化を基盤として考察すべきだと主張されている。要は新しい文化が生まれつつあるのではないかという立場である。

このように考えると、本調査は青春真っ盛りの高校生を対象とするものである。高校生は本来、未知のものに挑戦する年代である。その彼らの生活と意識を通じて検討しようとする事となる。その意味では青春白書とでもいうべき報告書といえるだろう。

また、本調査では、社会や経済状況、文化などの異なる外国との比較をも行うため、お隣の中国、韓国、そしてアメリカの高校生にも同じ質問を行った。

質問は多岐に亘っている。進路や希望、若いうちにやりたいこと、生活意識や人生目標、職業選択などについて質問をした。こうした事柄を通じて、今時の高校生の意欲や生活実態を把握し、教育現場や関係者に有効な情報を提供しようとしている。

2) 調査方法と調査内容

調査の実施時期、調査対象などは次のとおりである。

・調査方法

	日本	アメリカ	中国	韓国
実施時期	2006年10月 ～12月	2006年10月 ～12月	2006年10月 ～11月	2006年11月
調査学校の数	12校	14校	18校	21校
調査地域	北海道 岩手県 福島県 新潟県 茨城県 東京都 兵庫県 宮崎県 福岡県 沖縄県	ウィスコンシン州 オレゴン州 ミネソタ州 ワシントン州 ニューヨーク州 ミズリー州 オクラホマ州 イリノイ州 ノースカロライナ州	北京市 成都市 河北省滄州市 洛陽市 杭州市 上海市 沈陽市 太原市 武漢市 西安市	ソウル 釜山 大邱 光州 大田 仁川 光明 水源 公州 春川 盈徳 南海 順天
調査方法	集団質問紙法	集団質問紙法	集団質問紙法	集団質問紙法
抽出したサンプルの数	1461票	1271票	1763票	1181票

・調査内容

進路と希望

若いうちにやっておきたいこと

生活意識と人生目標

職業意識

偉くなることについての考え

自分の特徴や心情

インターネットの利用

授業風景と学校生活への考え

3) 調査対象者の基本属性

		日本	米国	中国	韓国
性別	1. 男性	49.1	43.7	46.5	54.8
	2. 女性	50.9	56.3	53.5	45.2
学年	1. 高1(米:9th)	35.4	21.1	36.3	44.1
	2. 高2(米:10th)	31.6	14.0	30.3	48.3
	3. 高3(米:11th)	33.0	23.7	32.9	7.5
	(米:12th)	-	41.2	-	-
	無回答	0.0	0.0	0.5	0.1
公私立学校	1. 国公立	66.9	100.0	100.0	68.8
	2. 私立	33.1	0.0	0.0	30.6
	無回答	0.0	0.0	0.0	0.7
学校の種類	1. 普通科(韓国:人文系高等学校)	77.4	100.0	75.7	76.0
	2. 職業科(韓国:実業系高等学校)	22.6	0.0	24.3	23.9
	無回答	0.0	0.0	0.0	0.1
クラスでの成績	1. 上位	13.8	21.6	9.7	8.7
	2. 中の上	19.3	29.8	27.9	22.3
	3. 中	29.2	42.7	37.3	31.3
	4. 中の下	20.5	3.5	17.4	25.6
	5. 下	16.4	0.1	6.3	11.9
	無回答	0.8	2.2	1.5	0.3
総数(人)		1461	1271	1763	1181

4) 調査結果の概要

卒業後の進路

「国内の一流大学に進学したい」

日本 20.4%、米国 24.7%、中国 37.8%、韓国 28.5%

若いうちにぜひやっておきたいこと

日本:「一生つきあえる友人を得たい」

「趣味や楽しいことを思う存分やっておきたい」

「いろんなことを経験したい」

米国：「将来、役に立つ技術や資格を身につけたい」

「いろんなことを経験したい」

「一生つきあえる友人を得たい」

中国：「一生つきあえる友人を得たい」

「将来、役に立つ技術や資格を身につけたい」

「高い学歴を得たい」

韓国：「一生つきあえる友人を得たい」

「お金儲けをしたい」

「趣味や楽しいことを思う存分やっておきたい」

生活意識

日本：「暮らしていける収入があればのんびりと暮らしていきたい」

米国：「一生に何回かはデカイことに挑戦してみたい」

中国：「やりたいことにいくら困難があっても挑戦してみたい」

韓国：「大きい組織の中で自分の力を発揮したい」

人生目標

日本：「たくさんの友達をもつ」

米国：「円満な家庭を築く」

中国：「お金持ちになる」

韓国：「自分の趣味や興味をエンジョイする」

偉くなることについて

日本：「責任が重くなる」「自分の時間がなくなる」

米国：「自分の能力をより発揮できる」「周りに尊敬される」

中国：「自分の能力をより発揮できる」「責任が重くなる」

韓国：「周りに尊敬される」「自分の能力をより発揮できる」

偉くなりたいか

「偉くなりたいと思う」「強くそう思う」

日本 8.0%、米国 22.3%、中国 34.4%、韓国 22.9%

将来就きたい職業

日本：「営業・販売・サービス職」

米国：「医師」、「デザイナー」、「スポーツ選手や歌手」

中国：「会社・企業の経営、管理職」、「公務員」、「法律家」

韓国：「小中高校の教師」、「会社・企業の経営、管理職」、「デザイナー」

心情

「よくいらいらしている」日本 28.0%、米国 18.4%、中国 17.8%、韓国 13.2%

「よく疲れていると思う」日本 50.0%、米国 38.2%、中国 31.8%、韓国 37.0%

自分の特徴

4ヶ国の共通項目：「好きなことに一生懸命に打ち込む」、そのほかに

日本と韓国：「与えられたことを頑張ってる」「誰とでも仲良くできる」

米国と中国：「人の世話をすることが好き」「何にでも疑問や関心をもつ」

インターネットの利用

「ほとんど毎日」：日本 23.0%、米国 58.0%、中国 8.0%、韓国 48.7%

「あまり利用していない」：日本 27.4%、米国 6.5%、中国 32.9%、韓国 5.4%